Rethink
フォーラム

視点を変えれば、世の中は変わる。

Rethink＝視点を変えて考える

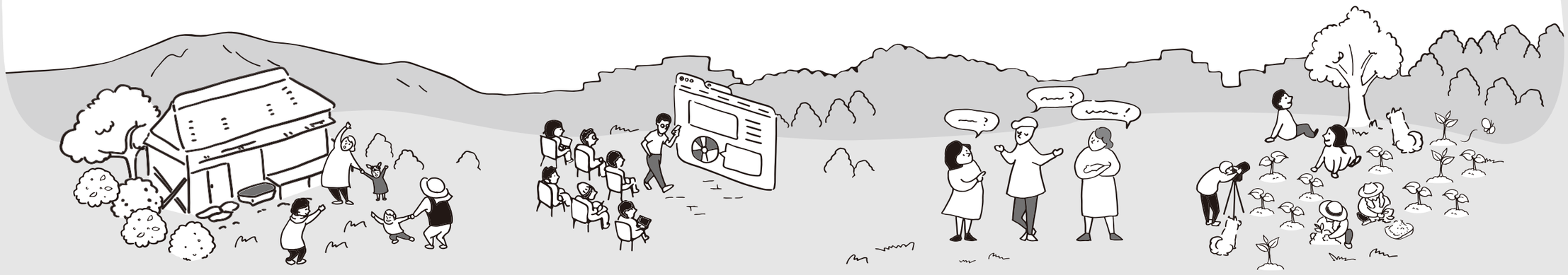
ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を変えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに行う地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っていきます。

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。

みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



「Rethinkフォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる。」（福島民報社主催、福島県など後援、Rethink PROJECT協賛）が７月21日、福島市のウエディングエルティで開催されました。第１部はお笑い芸人のカンニング竹山さんが「自分らしく楽しむ視点」と題してトークを展開。第２部は福島県知事の内堀雅雄氏、福島大学人間発達文化学類特任教授でふくしま連携復興センター代表理事の天野和彦氏が加わり「Rethink福島～『そなえる・ふくしま』地域の防災について考えよう～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。その要旨を紹介します。

ゲスト

カンニング竹山（たけやま） 氏（お笑い芸人）

演題：自分らしく楽しむ視点

1971年福岡県生まれ。1992年お笑いコンビ「カンニング」を結成。キレ芸で人気を博し、その後は役者としても活躍。現在はバラエティー番組やワイドショーに出演するほか、単独ライブ「放送禁止」の開催や動画配信「竹山ライブショー」など、さまざまなメディアで活躍中。

想像を超えた人たちとの出会いが財産

第二のふるさとと思える福島の魅力

―竹山さんは福島を第二のふるさとおっしゃっていますね。まず、福島との関わりについて教えてください。

震災の後、福島にはよく来ていて、勝手に遊ばせてもらってＳＮＳで発信していました。ありがたいことに、この13年の間に知り合いもたくさんできて、今では福島に来ると帰ってきたような気持ちになってほっとします。東北の人は無口だというイメージがありましたが、全然そんなことないですね。関西人よりしゃべるんじゃないかと思うほどです。

―今年５月にはバスツアーも企画されました。

福島でいろんな人に会って教えてもらったことが僕のRethinkにつながっていくんですけど、県外の人に僕が見た福島をもっと知ってもらえるイベントのようなことをしたいと思ったのがきっかけです。ツアーには関東から参加された方が多かったのですが、驚いたのは、震災や原発事故のこと、福島の今についてほとんど知られていないということでした。自分なりに発信してきたつもりでしたけど、まだまだ足りないのかと。ただ皆さん、知ることができてよかった、福島の食べ物やお酒はこんなにおいしいんだと感動してくれて、それはうれしかったです。

小さな楽しみの積み重ねが面白い

―趣味の本を出されるなど、たくさんの趣味をお持ちの竹山さんにとって、自分らしく楽しむ視点とは？

やってみようかなと思うことが楽しいし、わくわくします。だからやりたいことをやっているだけで、三日坊主でもいいと思っているんです。趣味に限らず、例えば、今夜はほうれん草とニンニクを炒めて、ビールを飲みたいと思う。そのためにスーパーにほうれん草を買いに行くのって楽しいですよね。一つの趣味を突き詰めていくこともすてきですけど、僕にとってはそういう小さな楽しみの積み重ねが面白いです。

―やってみることがRethinkのきっかけにもなりますね。

福島に来始めた頃、僕は40歳くらいで、今後の仕事や人生をどうしようかと迷っていた時期でした。震災があって、いろんなことを考えて福島に来た。縁もゆかりもない初めての場所に足を踏み入れてみたら、想像を超えた人たちに会えて、話を聞くことができました。それは僕の中でRethinkにつながる大きな体験でした。今では福島に来ることが楽しみであり、ここでの経験は大事な財産になっています。

―人との出会いが、新たな視点につながったのですね。

ある人に教えられたのですが、お笑い芸人という軸が一つあれば、あとは役者でも何でもやればいいと。失敗してもいい。そういう生き方のほうが楽しいぞと言われて、視点が変わりました。自分で役に立つなら何でもやってみようと思えるようになったんです。

―今やってみたいことはありますか？

番組で大型バイクの免許を取ったので、バイクで福島に来てみたいです。皆さんもそうかもしれませんが、やりたいことを話しているときが一番楽しいですね。

Rethink福島 ～「そなえる・ふくしま」地域の防災について考えよう～

パネルディスカッション出演者　カンニング竹山 氏（お笑い芸人）、内堀雅雄 氏（福島県知事）、天野和彦 氏（福島大学人間発達文化学類特任教授／一社）ふくしま連携復興センター代表理事）、藤原カズヒロ 氏（ラジオパーソナリティ）　モデレーター

複合災害の経験から見えてきたこと

藤原　今日は「防災」をテーマに、Rethinkの視点で皆さんと考えていきたいと思います。福島県は東日本大震災、原子力発電所事故という未曾有の複合災害を経験しました。まず震災直後の経験や復興に向けた取り組みについて伺います。

竹山　震災後、ラジオ番組の仕事で福島に来る機会がありました。「これは長い目で見ないと簡単には終わらないぞ」と感じ、カメラのないロケをやろうと思いついたのです。ちょうどツイッターが出てきた頃で、それで発信することを始めました。

天野　私は当時、県庁の職員で、避難所になっていたビッグパレットふくしまの運営に携わりました。大変な中でも被災直後の避難所には笑顔もあり、冗談を言い合う人たちもいました。私はその姿を見て、人は希望をなくしてはいけない、こんなときこそ人と人がつながらなければと気づきました。正直、醜い一面を見ることもありましたが、それ以上に人の美しい姿に触れたことが今の仕事につながっています。

内堀　このRethinkフォーラムは、今年は全国11カ所で開催されているそうですね。その中で、防災という堅いテーマにもかかわらず、福島が一番参加希望の応募が多かったそうです。福島県は地震、津波、原発事故、風評被害という複合災害に見舞われ、今も向き合っています。これは世界に前例がない。しかも長い戦いです。処理水の問題、中間貯蔵に関する問題など、この先も続きます。こうした中、県民の皆さんが防災に高い関心を持っていただいているのはありがたいです。

防災・減災につなげる三つのキーワード

藤原　災害への備えについて、どのようにお考えですか。

内堀　大事にすべき三つのキーワードがあると思います。一つは「自分事」、二つ目は「そなえる」、そして三つ目が「マイ避難」です。いざという時のために一人一人が自分にあった避難行動を考える「マイ避難シート」を、ご家族や職場の方々と作っていただければと思います。

天野　私は「さすけなぶる」という防災教育の教材をつくっています。避難所運営に大事なことをワークショップ形式で理解してもらおうというもので、災害を自分事として考えるためのツールです。そのワークショップで体験するのは、まさにRethinkなんです。ということで「さすけなぶるフォーラム」をこのメンバーで第２弾としてやりましょう。（笑）

竹山　いいですね。そういうことを学びたいです。

天野　東日本大震災を経験して痛感したのは、準備した以上のことはできないということです。福島市では、夜間の防災訓練を始めました。災害はいつ起こるかわかりません。それが夜だったら、という準備も必要だと思います。

内堀　防災グッズについて、以前、津波のときは何を持って逃げたらいいでしょうという質問がありました。その答えは「何も持つな」です。躊躇しないで高台にいち早く逃げる。災害によって、持ち出す防災グッズの考え方は変わります。

福島県防災アプリの活用を

藤原　これからの防災について、そして福島への思いを。

内堀　今年３月、「福島県防災アプリ」の運用を開始しました。気象情報や避難情報を随時お知らせしてくれるほか、ハザードマップの確認、避難所の検索、避難所へのルート案内など多くの機能を備えています。河川水位情報や雨雲情報、道路規制情報、河川カメラや道路カメラも確認でき、マイ避難シートの作成、グループ安否、備蓄品リストなどの機能もあります。国内であればどなたでも利用できます。例えば、おじいちゃん、おばあちゃんでスマホを持っておらず、お子さんが東京にいるとしましょう。福島のおじいちゃんの住んでいる市町村を設定しておけば、東京にいながら福島の防災情報が入り、「危険だから早めに逃げた方がいい」と注意を促すことができます。

竹山　すごいな。僕も登録します。これは無料ですか？

内堀　もちろん無料です。課金もありません。福島県防災アプリはまさに「これからの防災」です。ぜひ、登録いただき、周りの方にも広めていただきたいです。

竹山　芸能の仕事をしている僕にまずできることは、人と人をつなぐことかなと思っています。状況が落ち着いたら、エンタメが求められるようになるかな。

天野　人はパンのみにて生くるにあらずと言いますが、やはり芸術や文化が人の命を強めたり延ばしたりするのですね。

内堀　竹山さんは福島で印象的だったエピソードはありますか？

竹山　震災から４年目くらいの頃、原発事故でいわき市に避難していたばあちゃんが「生まれたところで死にたいんだ」と言ったんです。その言葉が深く心に刺さっています。

天野　13年前、私たちはふるさとを失うかもしれないという経験をしました。「ふるさと」とは単なる場所にとどまらず、その地域での人と人とのつながりを「ふるさと」と呼んでいるのではないでしょうか。私も語り部の一人となり、ふるさと福島を伝えていきたいと思います。

内堀　福島県の皆さんは、東日本大震災、その後の自然災害を含め、さまざまなご苦労がありました。繰り返しになりますが、大事にすべきキーワードが三つあります。一つ目は「自分事」、二つ目は「そなえる」、三つ目が「マイ避難」。この三つの言葉を、本日のお守り、お土産として持ち帰り、家族や職場の仲間、友人に広げていただきたいです。ぜひ、一緒に防災、減災に取り組んでいきましょう。

竹山　福島っていいところだな、メシがうまいなと、一人でも多くの人に気づいてほしい。そのためにやりたいことがたくさんあるので、また福島に遊びに来ます！

主催／福島民報社　後援／福島県、福島市、福島県商工会議所連合会、福島商工会議所、福島テレビ、テレビユー福島、ラジオ福島　協賛／Rethink PROJECT

Rethinkフォーラムホームページ　https://rethink-pjt.jp/forum/index.html

※Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称です

Rethinkフォーラム　検索